上野国志ふ

言々葉々おのつから数とはなれど人の心
天地とともに伝はり行ものは和哥の霞化
世上の風雅に古跡をとゝめておのれ
賞にあらむとするの程なり中古より
伝はる此一筋をたゝ一家に可有麗
老人門葉を育して世に絶ざる事
我家に扶翼して廿余年旦暮に
四方の吟詠を清め稿を机上に深
しつゝ原さまに埋木のなりし

世とともに貴き賤きの如くに
年波集脱すれば三編ふるさと絶へ
色こそ仏うばふ人なれ
老ものはよ仏ふ面やうなれば花和
仏化とを蝶蜜吹日

柿園南
條樹年書

いとゝ如時ちゝ山ちゝ藤の花 木
蓮華草 菜の花 梅宮
曲水ふ来て蛙角右ル小野ゝ風
蓮華の山ゝ井寺一杉ゝ碧 禾明
吹ぬけて弱ゝ柳ゝ十二 鶯花
ぬけもて行て行の野一林の梅 白砂
いとゝ風ふ二月ゝ冬 吟ゝ
鏡山ゝ小野を野ゝみ 花乙

多小屋ふきしら雪や夢の茶屋ヲ　應吏

鮫魚の笠やさし出す梅の下道　光琴

蕎の粉やうす雪の夢ちらしの山　茶曹

雪や和尚ふまれて水のうるみ　甘色

海苔焼る白い夢うつす恵乃面　木亀

夢さめて汐のさし込む松の弁　五浪元　慕く

梅ちるや風の音きくたなびく　愛象

寒梅も散て捨ても舞ひ　ハチ　僊丘

雪国と絵にもかゆる雪の中　苔地

うぶ毛ふるる梅の蕾　梅鳥

蕎麦畑一面の野菊ふる乃　甘谷

婦うまれて美人うまるる元旦野　イヨ　映門

片袖をいつぬけてつゝみ　菓園め

元のまゝ歯つて後の野沢　トサ　市鈴

芋い人のさゝつゝけや梅の宝　蓋通

小屋うつる風四を行ふ　百代

花見いろも香のクアフる　夏恋
吉麻呂の歌を考へ合せ　出流
風の糸乃ゆる迄ひとすぢ（ヒムカ）　双鳥
蓋の糸も初めらし花の年　山公
拝殿にて綱を引く菓の立所（チシコ）　慶立
菓の葉の濡れて吹散れば（タンコ）　冒良
乙女の袖迄ぬれ屋うれ（イカ）　養仙
ひかり射ぬ秋の朧月（イセ）　流芳

月さへ見ぬ夜の雲間　柳乃花　都後雄
花もあらぬ峰を移ひを惜む　俊楳
振ハしき中も新月の柳　拙高
老ひけれ初めて知る柳　角海
鴨の来し日の新蕎麦　松心
風の眼のつゆ迄ぬれ　柳賤
ひかり氣の入て出代る男の移　米山
立次の菊の花ひらく　方行

[illegible]れたる　梅の木（ナリ）　蓮湯
[illegible]　梅の[illegible]　赤竟
[illegible]　神[illegible]を[illegible]　玉脇
[illegible]　隔まく　樗の[illegible]　栗く
[illegible]　梅むし（カヒ）　欽我
[illegible]　[illegible]（[illegible]）　嵐牛
[illegible]　[illegible]の沙[illegible]　松[illegible]
[illegible]の花一本　[illegible]（ミカ）　蓮宮

[illegible]　沙[illegible]　寒[illegible]
[illegible]　[illegible]　水井
[illegible]　[illegible]　石泉
[illegible]　[illegible]　彼文
[illegible]　[illegible]月梅（スルカ）　岩山
[illegible]　[illegible]の[illegible]　有鱗
[illegible]　[illegible]（サカミ）　ぬく
[illegible]の[illegible]　宮[illegible]

和歌や形見ぬ世にふる一つ　立字

山裾やそこ流れ面影一本名ハ　九蘇

大風のうゝ形ふさ見ゝ郭毒ゝ　一之

とゝ形く裏の音ハ人ゝ　末白

ふつとゝ地ゝ落つく霜ゝ　葉外

幹上ハ風のとゝ動つきゝ孔上毛　心是

落葉の色迫ゝ見えた紅霜　芦江

容易ハ売さゝ動ゝ　一敦

白ゝ塔を孤生ゝ　邪雲

祝ゝの形ゝよきこえゝ　汀鳥

花と艶の迫ゝ地ゝ搭ゝ　雨村

人ゝて日の暮ゝ寺ゝ柳ゝ　素滴

月ゝ夜ゝ竹ゝ夜ゝ形ゝ重ゝ　巨壹

人ゝゝ笠ゝゝ迫ゝ　玉洞

地ゝ焼ゝ示ゝ　如傳

消ゝゝふ花ゝ拍ゝ寺ゝ　丙考

[illegible]の言葉を梅のまくら
下ろれかかるまくら寺の柳哉　孤石
[illegible]や磨鏡　[illegible]　魯水
書物の身をわすれ掬く男猶　中節
東風吹や人のこころ[illegible]　花風
仏光[illegible]　小風[illegible]　士明
[illegible]の時分先まつる山[illegible]（イカホ）　一粒
いそ[illegible]後を[illegible]まて[illegible]の雲（ムサシ）　青荷

[illegible]池の玉ゐもうひ[illegible]柳[illegible]　東吟
[illegible]　[illegible]　赤吟
一[illegible]　自ひ[illegible]　[illegible]三[illegible]　梅芳
[illegible]れて[illegible]を[illegible]男猶[illegible]　玉芝
[illegible]て人[illegible]れ[illegible]　枝暁
人の[illegible]　[illegible]　東花
[illegible]や[illegible]　[illegible]の[illegible]　文石
[illegible]人[illegible]姉[illegible]　保水

世にふる柳はうゑ[illegible]ゆるるかな　如樣

立ぬるまゝ僧の庵ハ鞍馬ゆ　柳雨

ちく見ねハ言葉ゆゝしき花の蕾ヒクメナ　菊岳

年月の移り行ぬるうつゝ哉　梶二

見えそめし海のうつゝ哉の海ゆ　石三

昔屋にかりて柳見る二月ハ　雲雁

心ゆるぬ柳の糸ゆ　四山子

見ぬふりして柳形しもとゝ　鳳軒

蕗の薹や杉を見きるの朝月秋　雄岳

暖を見て元日の赤ゝ見ぬ　湖山

行ちみちくの道も新見の余寒ゆ　一見外

一海の次ゝ広ゝ晴ゆ朧月　特子

焼船ふ海苔の形ゝさき掛ゆ　梅塢

雨ゝをゝ人よゝゝたゝゝゆ　念ゝ

寒ゝ見ぬ山ゝ深ゝたゝゝの石　松竹

初霞ゝ行ゝゝ行ゝ山ゝ　乙雄

[illegible]　左乙
[illegible]　石和
[illegible]　英元
[illegible]　素一
[illegible]　奇芳
[illegible]　本明
[illegible]　如六
[illegible]　寄古

[illegible]　希原
[illegible]　乙良
[illegible]　雪城

[illegible]　楽美
[illegible]　遠洞
[illegible]　風樹
[illegible]　美

素木戸の須の結ぶ月の秋　洞
ふる里ゆ帰る雁とまらし　樓
度沈い無言の沈乃砂粒口　素
龍葉嗤笑を思る遠服　洞
ぬるゝ袖も言ふ雨ゆるきに　樓
尺八ふるふ雨も思る伝　素
恵蔵ふる雨の雲のかるる　洞
枯野のまに傳ゆる伊豆沖　樓

苔生る岐と樽梅を隠す崗　素
古明神る海桶乃底　洞
二潮ふる雨ぶれ雨のぶ伝　樓
山を伝ふ伝ふ雨お伝　素
和尚の発ふ雨しと雨ふ雨め　洞
風のふ野のやふ雨ふ雨　樓
野の上ふ地下ふ雨ぶ雨ふ雨　素
竹ふ野ふ撓ふ雨ふ仲の榻于　洞

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]の命ハ[illegible]の[illegible]

[illegible]用も[illegible]ハ[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]年の[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]小用[illegible]ハ[illegible]月

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]相

[illegible]利と母の[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

暦[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

二月八日ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　京　伝幸
[illegible]　[illegible]　[illegible]
花も葉も歩き[illegible]　鹿乃袋角　サカ　丈翠
雲吐て[illegible]　[illegible]　[illegible]　長風
[illegible]　[illegible]　[illegible]　十二　其山
給[illegible]　[illegible]　[illegible]　林曹
[illegible]　[illegible]　[illegible]　夢翠

[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　八　素英
[illegible]　[illegible]　[illegible]　万像
[illegible]　[illegible]　[illegible]　柳子
月[illegible]　[illegible]　[illegible]　花笠
[illegible]　[illegible]　[illegible]　文想
[illegible]　[illegible]　[illegible]　采雪
[illegible]　[illegible]　[illegible]　橘茶
[illegible]　[illegible]　[illegible]　白米

流れ来のかてに腐の引潮哉（アハナ）　吐風

六月の杉苔の白（トサ）　言風

とくとくと松葉の屋敷　嵐夕

酒志賀の藤見きやや菖の花　仁羅

杉よりて芋ほりよ来やや　杉苔　大亀

夏籠や御寄の岩柚の花　契外

料理坊て見ぬ人の和歌（イヨ）　雪岳

青田見る水を杉の柱（ヒカ）　亭く

屋号やうやうもの思ひ一点所（イセ）　相一

坊屋の月ふ菊さく入て思ひ（アラミ）　雪水

歩て見ぬ八月も思ひ出ひ人の　三江

宮を見て扉書ひ思ひ出ひ　旦松

鳥のちて蓄ふ迷ふ蓮の花（スルカ）　洗山

都見ぬ赤沼の赤とき沼　雲然

仏の宮やき色て世ろ人ひ　柳雪

かくさ徒妙都の菓やや宮見（アハ）　秋雨

文多けるおもしろのゆるみやまの秀　黛蓋

時雨野やゆき島津く通し　駕　ニキヌ　鶴蛟

名月の雲しるみるすみみる　素谷

池河と見えて静の外蔵や竜　仲綱

芋鞠も振蔵やをそこ支ら　蕉水

迎今迄い葉ゆく程ら摩耶の亀　仮峰

青梅のこ面色止ら育ち　雪禁

和の郷や波ゆの雲ゆ　松蔵

潜仏の身の外ゆ少ゆ　勝庵

格も茅屋と迎ゆ　雪居

早と初ゆ月の長法ゆ　素三

結ゆの明ゆ　梅宇

紫山も茅屋ゆ程や言葉ち　梅庵

芽の編ら現ゆ　秋秋

蛾ら人を流ゆ　呉羊

時ら備ゆ初ゆ　東葵

流くと云ふ流るゝ水の音ト也　同平
糸乃の一武徒通る新橋ゝ　嵐富
夕時や月の宮の二タ子ゝ　ヒタチ　桃二
月の行る雲を遮し蓮花ゝ　李家
雲合の中や袷と点ぬと　野菜
点点をしたゝ遊れ初ゝ　オリ　佛孫
多仮や仏乃合一人乃来る　ヒハ　渡山
果て言る人の見ゝとゝろゝ　二丘

風鈴の子立て二階の板ゝ　ムサシ　伊山
蔵ゝの中裏ゝ行ゝ　涼松
井桁て二ゝゝ形ゝ高と月　点秀
夏夜の蓮ゝ花乃蓮の　梅石
蓮て ゝの仏ゝゝ　五夜
蓮て ゝ花の月ゝ　皮平
蓮もいて文云て　菜桂　エト　一具
傳ゝ火をい徒る　由蟄

多とりけは稜の花や雨あかり　葉静

花しの白露や千鳥子　魯心

坂乃都も雨二つや琵琶の音　石山

浮世やうに華や夜の山　永久

北折て風かに庵の庵木り　梅笠

五月や机乃うへ子芋の花　雄左

庭山ちぬ花那く子持ちぬか閉る　華陽

あくとこめ梅干那らへしきふ　濤斎

見まへ縁しけりあとへまれ　萬里

大き過て淋しう思ふ牡丹かな　音好

蓬生や行ゆるみ飛ちらす　幻外

さみ多れの晴間しや放生会　逸洞

堀川小夜る夏乃ま明　雲居

刀打鍛治の仮屋や塩振て　、

東地の打叙子蒸もの臺　同

荒畑を男すきうつ山ぶしと

春おもてみ梅ち咲ける　岳

ちるもこみ雪も新をかく男

句体つけて雉の巣の蕗　洞

岩沢の芽の新さ沢たるる

城新の芽ぶきうしと照

名月の雲会うしるる元　岳

明ぶやうるる碓まるる　洞

十年も野ぶやうぶる気氣自

新飯ぶみかを掘る餐　岳

夏命ぶ河をうけうぶる恵

机のうへの活弾吹と風　洞

和花の吸てる活恵眉の東

桔梗変ぶる芽ぶく　岳

ぬるぬるぬるぬるぬる活恵

大俎板を恵沢牧食　洞

山伏は是弘仲なるべし

、 岳

鳴りて胸のとやとや

、 岳

是吉原なるべし 猪名の妻き

、 同

玄猪の日なれば

、 同

ちちとはつるあの花の咲きあ

氣あるべきの焼餅の音

、 岳

和とうるも是にあるべし 野任

、 同

紙付は是なるべし 胸は是

風吾和うるそ月を見ず

、 岳

歌書き 築の迹乃名残

、 同

いろはの和歌を 国乃名

供のそそいく大名の旅

、 同

正れの言葉なきうるはきうる

、 岳

ものしく 博多 三月

大和の歌を 京なりと思き

霧乃庵より法螺の声ゆる

、 同

花さそふ水の花なき秋の月　逸洞

ゆくさ野なる山ゲの嵐　邪雲

葡萄酒高の杯のにごりなく　洞

接ぶ仲ゴの手形しるく　雲

臘梅の鼻の咲くの音ずれ　洞

梅の枝大の壺ゆるさん　雲

寒雲支木食小舟の結形ゆ　洞

ひとふしものを引かの蔦

一日ゆ二日の色をさしそめ　雲

男郎花ゆ白の如き市の光　洞

身を思ひ岡ゆ沈色ゲ世ゲの　雲

月を師ゲも志ゲぬ点形ゆ　洞

ぬくくと節雪ゲ枝ゲ　雲

こ面ゲ世ゲ小九食ゲを喜　洞

年ゲ千紅の新ゲ世ゲ　洞

[illegible]の所野
的弓の稽古はじめ花巻
[illegible]敵鞋の紐
撰平小はしゝ公家の供
書竜写義[illegible]
[illegible]の一[illegible]見忠記帳
豪[illegible]祝方のうち
[illegible]園の内

雲
同
雲
、
同
雲
同
雲

面白[illegible]の博[illegible]
永[illegible]八四[illegible]
[illegible]の祝宴の餅を[illegible]
異人の[illegible]
魚の体[illegible]殺生
[illegible]の[illegible]小新の[illegible]月
[illegible]
[illegible]

同
雲
同
雲
同
雲
同
雲

後書に出ぬる歌ども

法皇の隠れ給ひ　雲

乙女の法よ庫裏のかつら　同

花さけて散りも惜しむ人ぞ多　雲

少納言しうつる裏の秋　同

さけて散りも惜しむ切籠かな　杉夢

多賀の宮本殿尋ね浦の月せま　冬波

月の西宮の日和よまさうり　浅吏

行あらしに和歌浦の月の雲　嘉瓦

初しぐまの雲や月の夢ゆめ　曲阜

新ちりて鹿ぞ鳴なる紫金

隠れ返く雲ぞ鳴なる　嘉泉

花麦のみうつる麓のくもり　芳蘭

海ちかい田まやしまさう　釣月

俤くの風光るすまなる　綿尺

[illegible] 林菖
[illegible] 涼哉
[illegible] 婦牛
[illegible] 元史
[illegible] 葉人
[illegible] 悠々
[illegible] 弓射
[illegible] 裁史

今度の[illegible]雲伝 アラミ 砺山
[illegible] 村 エチゴ
未拾遺の中より菓乃茶 三カハ 三岳
所々[illegible]の都 桐古
むしの[illegible]氏記次 茶器
[illegible] 袴 エンシウ 真山
[illegible] 裏の菓 スルカ 東麓
[illegible] サカミ 板崖

蕎の暗き立のみ残る蕎麦哉　菖古

蛙鳴やかく〳〵時雨て後の月　素都

まち〳〵よりも松風の強きて　素白

夕の雲や雨を軽いて月の雲　夕尾

きぬぎぬ見えて〳〵月の叢う蛇　逸芝

蔓枯て野原もやうやう風　柳雨

大海へ出て角〳〵鳴る秋の風　秀蕾

名月や和歌作る歌の雛　天龍

撓まるそうう〳〵さや萩の花　左谷

風ハ地をも移れたるや如らも　谷龍

相一葉蔦も変ふりさしれ　聚雲

角うて出て角よりきかこう歌　七谷

来ふんと庵とる見えるけれ　巳明

高く霧の隠遁すれや乃松の雲　無名

戸ハ雨をふひうけ行の蕨　陽人

遠り火の海を雨ふる四辺の雨　可文

濱生しの俤のうくの月見や　涼井

心なるさまや・拾遠集の歌の心　三蕉

岩うけの苔もうくもきもやや　笈云

文月や屋うもまさる風呂使　支考

山もうくうるうるあるる九月や　エチコ

蓑島積ハあをぜ花や秋の雨　素堂

ちらちらもぬくのきらぬ切籠や　蒙山

松の雪ぬ光の蓑島や菓子屋　西鶴

北洋

樹すくなくなるあるの歌の見えまり　桃葉

古屋に新や桃のうらおもてカ、　悠平

海を庭山を簾や月見船　蒙峰

きくてもの藤の花や蔦の葉ヒメ　桃二

遠うの所の新る見えるアサ　仁里

さくらと桜と桜の橋の葉ナリ　等河

接穂新日よりの和る柳う新テハ　義山

玉鬘扇小枝の雪や蓑島村　和好

出て見れば雲のうち移りての川　履仮
咲し藤棚のもとに遠く来て　東蓋
蔵ぬ人と毎日花ちる玉大うれ　象妙
雑詩の尾のまとゝ風の後　玄扉
言葉ひしりて見る絵の色　梅笑
新きけし人は見ぬ相思草エト　均芸
牛のまゝ鞍馬ゆる暮月うれ　春化
下ゝも見ぬいとゝ遠く梢　月白

花ちるせんゝ初けて見る月の雲　守二
川辺ゝ行るの明ゝ杖の白　呉墨
春の身の軒を来ゝ初ゝ新れ　杖有
ゝ新ゝ出いまゝ見ぬ花ゝ新れ　梅章
明ひくゝ月ゝ見ゝ　寛三
明の中出橋の橋波ゝ新　重簫
磬行過十日の夕ゝ花の　寿嘉
花多ゝ行ゝ橋の橋行ゝ　雅雪

[illegible]の[illegible]て[illegible]を着る氣　清邑

服[illegible]のるまの月[illegible]波まを　伯意

[illegible]や[illegible]を[illegible]月よ虫の[illegible]　湛石

[illegible]を苔る[illegible]や角力反　逸洞

[illegible]の[illegible]ゆはる蟲　陽人

梅を従梅の月の[illegible]ら殺らん　〃

[illegible]毎しは[illegible]る男[illegible]　同

月の[illegible]後の[illegible]らんかくと　〃

材の[illegible]の風[illegible]ゆも[illegible]　人

[illegible]梅の小菓[illegible]を咲[illegible]ひ　〃

仏[illegible]の[illegible]ふ孫[illegible]のの[illegible]　同

[illegible]遠の流[illegible]る[illegible]　〃

[illegible]ちつ[illegible]く夜の入船　人

[illegible]の後[illegible]も[illegible]つ[illegible]し[illegible]　〃

藝者の借[illegible]ゆる　同

熟視すれば男の特に聡さん

月のごとく金ぶち眼の清らかに

松風しづかに竜ぶの峰を吹きすぎ

下を清流ながれ流れて夢ひく

庭のうちもとあちこちに花の香

ちらちらとうつる春のうつろひ

高らかに人の語らひ笑ひ

うたひ笑ひ談話の声

人、同、人、同、

上陸乃儀式終りて直ちに

見張つをし岩の蔭より

前の砂より和の砂を風俗

虚栄うつて場所賞金

入札うつてを請ふ捜書

貨の利上みく変も来る

意さうふ世況の枝をうつを

風うつ振ちふ髪毛の仮

人、同、人、同、

蝙蝠の出て来る宵のゆふへ　、

鳴もとまれ垣の蓑虫　人

鎹の手の椽揺らぐ小方丈　、

綺り葉形見に残る紅葉ぞ家　閑

所言の網く蔵越遠郷へ　、

荷の額合なく画る基先　人

裸身の男に花のちりかゝ里　、

けふしも醒ぬ海の膝　閑

和漢聯句

蔓草行旋りふ滝の緒も茂す　蝶山

秋雲又起峯　西馬

鎌月飛田落　德之

うけとてゝ宿る窓の月かな　山

歳晩世間閙　馬

鬼の負ひ持も人の詰れる　德

烹茶時驅睡　山

求句且忘慵　馬

[illegible]　徳

[illegible]　山

やうしふ矢庇の迫の[illegible]　馬

賃居交老農　徳

三日月を[illegible]　山

擊柝静吟蛩　馬

[illegible]　徳

蓮の[illegible]の[illegible]　山

花顔郎太菱　馬

春雨深衣濃　徳

[illegible]　枯鶯

うつくしき後の[illegible]　[illegible]

降る雪を[illegible]　[illegible]

しらしらいつくを[illegible]　梅通

[illegible]　徳夢

御名残惜の出来るとしの内　上六戸　鶴岳

此の時初めて十羽来る　キヲ　白く

雪雲の峯御うすく　夢淩

完事なれば　時雨八　風情

小春日　多の御うすく　東元

十月や秋の庭上菓子　蘿彦

名ばかり行春の月　杉丈

天保元三月　白菜

地ならす雪の白き蕗の薹　杉雄

人来るまで御うすく　山月

月新も小さな新やひろう山　方四

美濃けて見て雪のうすく　草蘿

一茎ずつ雪の中の蕗　トサ

雪月や名を絶えし筏もし　イセ

城跡の古き行き雁の雲　雪汀

枯れて雪ふる新年　松鳩

椒絶て世をこの道にうしなはれぬ　ヨハリ　烏律

義山を山ふよ杉を蔭うれ　忠文

竜華や杉にしまれも高き　李慶

平立ちの音しきりや鐘の音　清水

うつうつと山うつりの小さきの風　而后

鐘つ撞如四へ梅ひしれぬ　英山

行うつ人を庵うし相少稲　アラミ　枫下

雨の戸は多を見よりの冬うつ　カヒ　蕉雪

杉年を湖うしの名残うれ　三カハ　年況

梅の実や春なり色しあうしう　三十文　梅蔵

是うも元祝の夏しれうう　末白

杉れう絶て多しうて葉の白い　月歩

玄多出小志如春見のしうれ　竜　西馬

名残て出絶うあうれや春文　文河

杉の実祝うかこも絶うう　祇俳

孫やこの多うれを義義うう　玄河

三千歳屠蘇の炭たより　枕宿
あらけなき火鉢形なつかしく　一枝
毎の年や梅の見水の春　沙弓　末廣
勝のまや三筋なりける　夏河
月雪のとき流をさそふ　娘山
たらちねや梅の咲の見度かな　松壺
見なしい葉ものさしやうもと　北山
更底も形を梅よ冬木立　呂風

梅きらるるもちをたれも梅の春　一止
月雪の為ものうさの郭　巴月
千年を辺る音なる鶴の声　陽山
其の少を梅うしなる事の春　如類
多分八重にうれ元祝代寿　汶上
形くさみ出るもを〆し竜宮佛　一帆
十年もうるやうなる人ひとり　耕雪
人師も人別も考ひ辛之丈　六八　風

吹ぬけし雪よ時雨の風ふかく　松宮

雪の花やさもなやさぬ坊の庵　桃二

ふこえゆる音へ引つる火鉢の煙　鹿三

音山よはをつけて聖いう拾よりなれ　柳吉

冬木立出ぬけて清き聖にう野　溝山

人の義の義為雨の火鉢の煙　遠雪

り迄て南拾いえんうつる　鈍彩

音柳の為をを形れぬ白ひる　万一

火を焚て猿やしらう大嗚口　曲甕

赤う見の弓張形雪見の風　子旭

松ふる松海しらう雪のきく　左魯

ふるふるとも雪の松風の風　雀く

海のうへ迄も海のりの景見う野　雲三

ふるふるとて雪ひらう厚　紗エト　如皇子

遠くとも風も遠ゆる神岳び　風外

時雨ゆや世を新見せの言世し　逸海

神名や　青葉まのあたり　庭うつし　紫檀

明を待つ　名所の梅の　初ぢ　雇翁

紅仕舞も皆　家おや　夷子　懸こ

と絞るまきこ　色入り　久々　又こ

一の日　二日の風　名物　仮水

雪　雲多　彩山　初雪　滴こ

飯けや　ちらも　一本　初雪

冬籠　水　雪　きこえ　ぬ

夢は　沙者の　ひけらの　ゆ　岩　米山

彩風も　高ふ　ふ　ふ　ちとふ　風　玉光

高　第や　枯つ　多　の中　一雅

花　も　の　の　花　百尺

こ　こ　ふ　や　砂の上　丈

芦の　鶴　音　こ　ら　東湖

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　逸岡

英照

何事も松風も松ならぬ音ぞ通 同

月もいまぬ秋の雲 遊

秋の雁遠の空にもなれぬ 同

渉みたつしの浦風 更

雪踏もく岩も深き藤ぎ 同

松ぬく村雨の橋ふる 更

光陰の筆のすさびもものぬ 同

そつて打佛を祝く計 更

雪の松白嵐の吹ぬ 同

人の歳をもくろむ 更

かりそめを野の草 同

宮ぬ野の草を清水 更

森ぬ中支古寺の辰の月 同

ちぬ花ぬ七夕ぬ義 更

元月かぬ戸板の夏 同

遂の意も多くの徒みなり

入道こゝみ親の墓の法謝風呂　河交

ゆゝゝ　ゆゝゝ　賀の祝ごと

瓢顧　辞

物の種古瓢を蔵する事のみ

数多せんを貯ひ初めたり彼の貴の玉石部乃

苔も物ゝ多くの小安年ゝ求発し隠ル

多人の富ひ物ゝ知さ色ゝいまゝ倦ル

仁の徳ひ積ふ事十ゝ年ゝ冥ゝ加ゝ

行初ふ物の多ゝ所ゝ知ゝ給をわすゆる行

嘯ふ時ゝ心ゝ悠ゝ悠の歩ゝ法を

志ゝ事ゝ世ゝ者ゝ人ゝ財ゝ宝を集

ふ財ゝ千金ゝ満ゝ色ゝ又二ゝ金を所ゝ

て終ゝ見ゝ色ゝ世ゝ事ゝ彼ゝ老ゝ

ゝ事ゝ加ゝ絶ゝ者ゝ人ゝ多ゝ

仰ゝ色ゝ法ゝ瓢ゝ者ゝ長ゝ行ゝ

何ゝ人の才律義にたゝしさるの手なる
さる職ゝ一日ふ佛さゝ瓢箪喜ひふえそと
誠ふ的中としに嬉見の古君於おゝ加
ましゑ見時の根ひの瀝展み以ゝ落
さ続多りす風に与給津母世乃宜免を
行そにちも続もいふ理志乃も思はゝ
ましに忽瓢箪人と根何ゝ多免仕処

不知庵主人誌